

令和2年度放射線安全規制研究戦略的推進事業費(放射線防護研究分野における
課題解決型ネットワークとアンブレラ型統合プラットフォームの形成)

令和2年度活動報告

令和3年2月

日本放射線事故・災害医学会学会

日本放射線事故・災害医学会では、本年度は「放射線防護研究分野における課題解決型ネットワークとアンブレラ型統合プラットフォームの形成」事業に関する直接的な取り組みとしては調査、研究を実施していないが、関連する活動として「第8回日本放射線事故・災害医学会」と「被ばく医療診療手引き編集委員会への参画」について報告する。

1. 第8回日本放射線事故・災害医学会

1.1. テーマ:被ばく医療で目指すべき線量評価のあり方

多様な放射線事故に際し、患者の被ばく線量がタイムリーに得られることが理想であり、そのための技術の開発や維持が重要である。その一方で、被ばく医療に本当に役立てられる線量評価とは何かという点について、過去の様々な放射線事故事例を俯瞰しながら、医療と放射線防護の双方の関係者が議論できる機会を提供した。

1.2. 日時

2020年10月3日(土)13:25 - 17:00 オンラインでの開催

1.3. プログラム

基調講演1「我が国における被ばく医療の経験」

特別講演「放射線輸送シミュレーションに基づく線量評価」

基調講演2「我が国の被ばく事故における線量評価の経験と課題」

パネルディスカッション;多様な被ばく事故に対峙する被ばく医療の立場から必要とされる線量評価の質や精度, また今後取り組むべき技術開発等について議論

2. 被ばく医療診療手引き編集委員会への参画

量研機構高度被ばく医療センターに設置された「被ばく医療診療手引き編集委員会」に学会代表理事が参加し、被ばく医療の専門家として執筆、編集に協力している。